

報道機関各位

一般財団法人 とうほう地域総合研究所
理事長 阿部 隆彦

第 1 回「ふくしま景気ウォッチャー調査」アンケート結果について

当研究所では、標記アンケート調査を 6 月に実施しました。内閣府の景気ウォッチャー調査では県別の数値が公表されていないことから、同調査の福島県版として当研究所で独自に開始したものです。本調査では、回答対象者を一般消費者に身近に接している小売や飲食などの「家計動向関連」に限定しています。

今般、調査結果をとりまとめましたのでお知らせいたします。今後も、本調査は定期的実施する予定です。

なお、詳細は当研究所機関誌「福島の進路」8月号(7月29日発行)に掲載するとともに当研究所ホームページでも公表いたします。

1. 消費動向

ウォッチャー（アンケート調査回答者）が日々の仕事を通じて接する顧客の様子から把握できる消費動向（購買状況）について尋ねた。

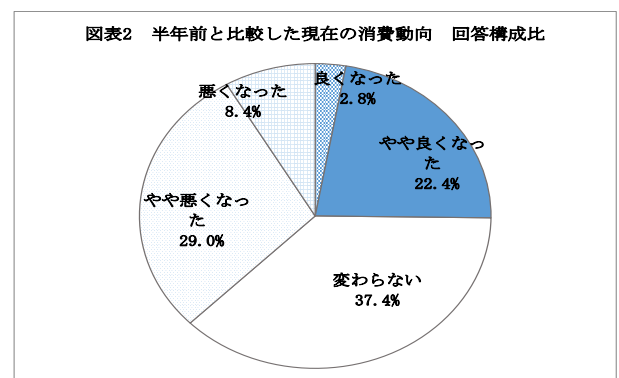
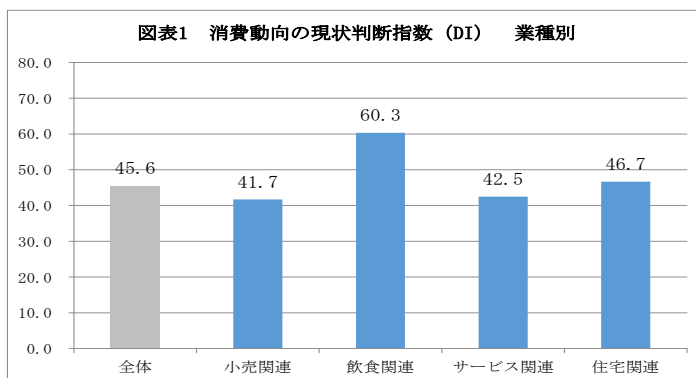
(1) 消費動向の現状判断（半年前と比較した現在）

約 4 割のウォッチャーが消費動向の現状を下降基調にあると判断している。

- ・消費動向の現状判断指数は 45.6 であり、横ばいを示す 50 をやや下回った（図表 1）。
- ・「悪くなった」「やや悪くなった」と現状を厳しく判断したウォッチャーが合わせて約 4 割を占めており、半年前と比べて消費が下降基調にあると判断されている（図表 2）。

◇業種別

- ・飲食関連が 60.3 と最も高く、唯一 50 を上回り上昇基調と判断された（図表 1）。「良くなった」「やや良くなった」のプラス判断の理由は、「来店客数の増減」、「顧客単価の増減」が多い。
- ・小売関連は 41.7 と指数が最も低かった（図表 1）。「悪くなった」「やや悪くなった」のマイナス判断の理由は、「消費意欲の改善・悪化」、「来店客数の増減」が多い。



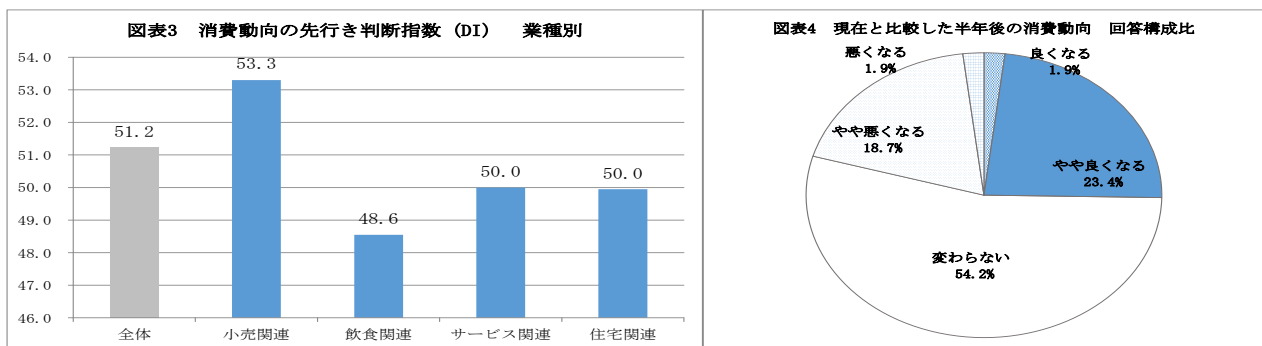
(2) 消費動向の先行き判断（現在と比較した半年後）

現状判断に比べマイナス判断が低下し、判断指数が横ばいを示す 50 を上回った。

- 消費動向の先行き判断指数は 51.2 であり、横ばいを示す 50 を上回った（図表 3）。
- 現状判断と比べると、「良くなる」「やや良くなる」とプラス判断した割合はほぼ変わらないが、「悪くなる」「やや悪くなる」とマイナス判断した割合が約 2 割（現状判断では約 4 割）に低下、全体では良化した（図表 4）。

◇業種別

- 小売関連が 53.3 と最も高く、サービス関連と住宅関連も 50 に達した（図表 3）。
- 現状判断が唯一 50 超であった飲食関連は 48.6 にとどまっている（図表 3）。
- 小売関連において、「良くなる」「やや良くなる」とプラス判断した理由は、「消費意欲の改善・悪化」が多い。



2. 景気動向

ウォッチャー自身の身の回りの景気（経済情勢）について尋ねた。

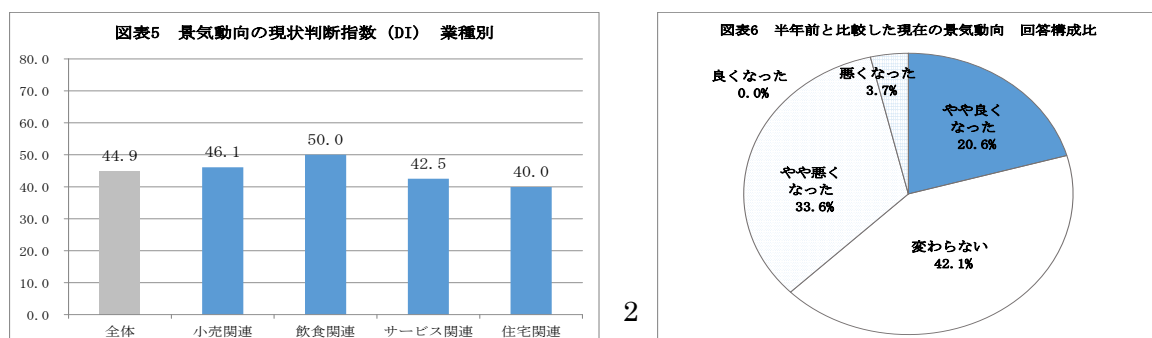
(1) 景気動向の現状判断（半年前と比較した現在）

現在の景気は半年前と比べ下降基調と判断された。

- 景気動向の現状判断指数は 44.9 であり、横ばいを示す 50 を下回った（図表 5）。
- 「やや良くなった」とプラス判断した割合が約 2 割に対し、「やや悪くなった」「悪くなった」とマイナス判断した割合が約 4 割を占め、景気の現状を厳しく捉えているウォッチャーが多かった（図表 6）。

◇業種別

- 飲食関連が 50.0 と横ばい状態となった以外はいずれも 50 を下回っており、住宅関連が 40.0 と最も低かった。
- ウォッチャー自身の日々の仕事にとどまらず、全体を総合的に判断する景気動向は、消費動向より指数が下回る業種がみられた（図表 5）。



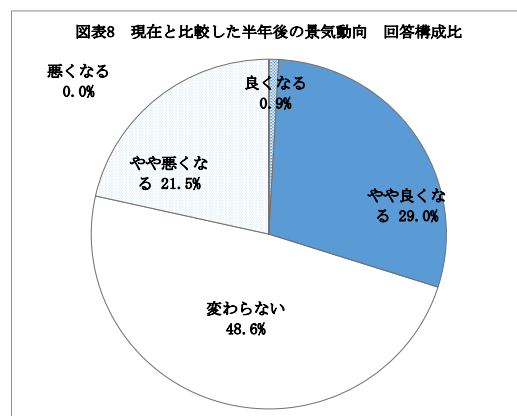
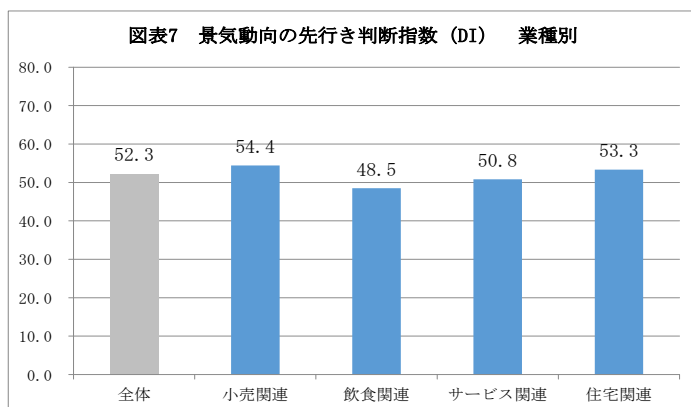
(2) 景気動向の先行き判断（現在と比較した半年後）

現在と比較した半年後の景気はやや上向くと予想される。

- ・景気動向の先行き判断指数は52.3であり、横ばいを示す50をやや上回った（図表7）。
- ・「良くなる」「やや良くなる」とプラス判断した割合が約3割に対し、「やや悪くなる」とマイナス判断した割合が約2割にとどまっており、現状判断に比べると、景気はやや上向くと予想するウォッチャーが多かった（図表8）。

◇業種別

- ・小売関連 54.4、住宅関連 53.3、サービス関連 50.8 となり、飲食関連 48.5 以外が50を上回った（図表7）。
- ・小売関連が現状判断 46.1 に対し先行き判断 54.4 になるなど、消費増税前の駆け込み需要の反動減からの回復が期待される表れとみられる。



3. 地域別の消費・景気動向

消費動向の現状判断はいわきが唯一50を上回り上昇基調。消費動向の先行き判断は県南などの中通りと相双で上昇基調となった。

◇消費動向現状判断

いわきが53.4と最も高く、6地域の中で唯一50を上回り上昇基調と判断された。中通り（県北、県中、県南）において、「良くなった」の回答はなく、現状判断に地域差が生じている（図表9）。

◇消費動向先行き判断

県南が56.2と最も高く、相双54.2、県北54.0の順となった。会津・南会津は39.7と50を下回った（図表9）。

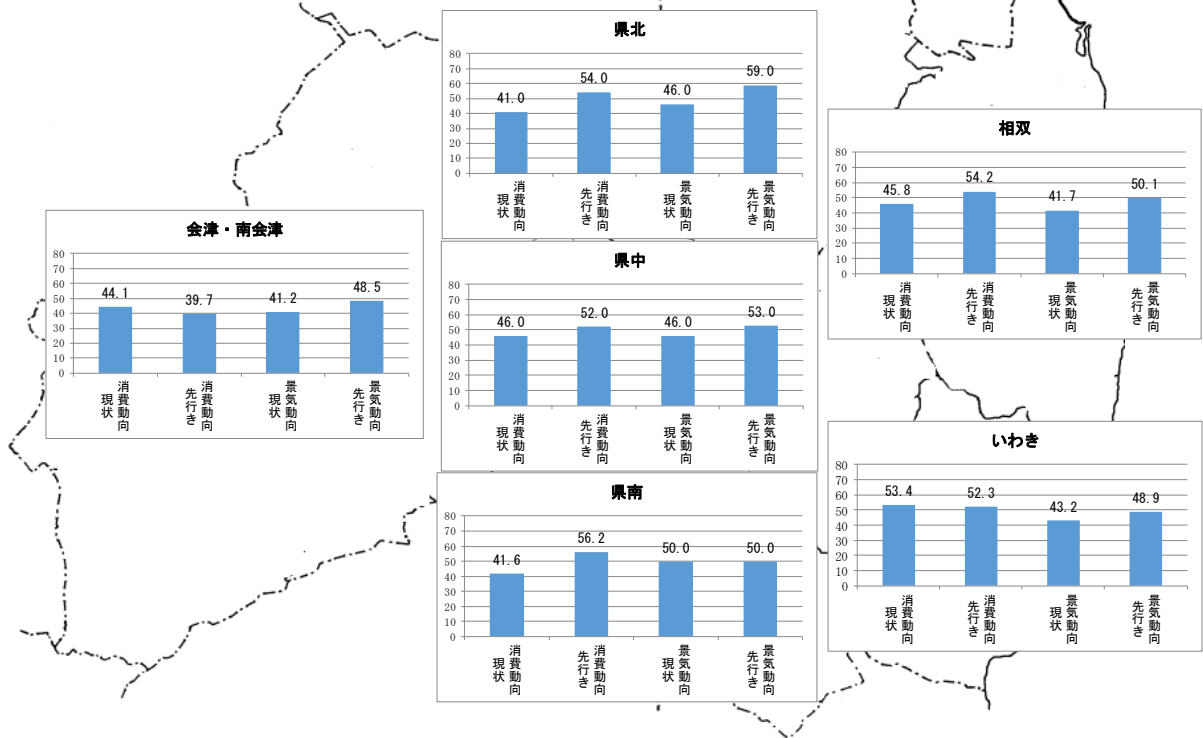
◇景気動向現状判断

県南が50.0と横ばい状態となった以外はいずれも50を下回った。いわきは、消費動向の現状判断が50を上回っているが、景気動向の現状判断は43.2にとどまった（図表9）。

◇景気動向先行き判断

県北が59.0と最も高く、県中53.0、相双50.1、県南50.0が50に達した（図表9）。

図表9 地域別の消費動向・景気動向判断指数 (DI)



4. まとめ

- ◇平成 26 年 6 月の内閣府の景気ウォッチャー調査の家計動向関連についてみると、景気の現状判断 DI は 45.1、景気の先行き判断 DI が 52.3 と発表された。比較する時期が内閣府と当研究所で異なっているものの、当研究所調査では現状判断 DI が 44.9、先行き判断 DI が 52.3 であり、県内の景気判断が全国平均に近い水準にあることがわかった。
- ◇本県の消費動向と景気動向に対するウォッチャーの判断は、消費税増税の駆け込み需要の反動などから半年前と比較した現状判断が下降基調となったが、半年後については先行き期待感を持つ人が多かった。

○調査要領

1. 調査対象者

県内の景気の動きを実態面から敏感に観察できる立場の方128名

2. 回収状況

有効回答数 107 件 回答者の業種・地域は6・7のとおり
回収率 83.6 %

3. 調査時期

平成26年6月実施

4. 調査内容

- (1) 半年前と比較した現在の消費動向 ※(1)、(3)、(5)、(6)は5段階評価による回答とする。
 (2) (1)の選択理由 ※ここでは、消費動向は日々の仕事を通じて接する顧客の様子から
 (3) 現在と比較した半年後の消費動向 把握できる購買状況、景気動向は回答者の身の回りの経済情勢
 (4) (3)の選択理由 のことを指す。
 (5) 半年前と比較した現在の景気動向
 (6) 現在と比較した半年後の景気動向

5. 判断指数(DI値)の算出方法

5段階の回答区分に、それぞれ下図のとおり点数を与え、これらに各回答区分の構成比(%)を乗じてDI値(Diffusion Index)を算出する。

DI値は50を目安としており、50を上回っていれば上昇局面、50を下回っていれば下降局面と判断する。

回答区分	良くなった 良くなる	やや良くなった やや良くなる	変わらない	やや悪くなった やや悪くなる	悪くなった 悪くなる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

6. 調査回答者の所属分野・業種

分 野	調査対象者の代表的な業種
小売関連 (45名)	一般小売店 スーパーマーケット コンビニエンスストア など
飲食関連 (17名)	料理店 酒場 など
サービス関連 (30名)	旅館・ホテル タクシー 娯楽業 理美容業 など
住宅関連(15名)	住宅・不動産販売

7. 対象地域の区分

地 域 (調査回答者数)	市 郡 名
県北(25名)	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、伊達郡、安達郡
県中(25名)	郡山市、須賀川市、田村市、岩瀬郡、石川郡、田村郡
県南(12名)	白河市、西白河郡、東白川郡
会津・南会津(17名)	会津若松市、喜多方市、耶麻郡、河沼郡、大沼郡、南会津郡
相双(6名)	南相馬市、相馬市、双葉郡、相馬郡
いわき(22名)	いわき市

本件に関する質問・お問い合わせ先

担当：高橋

TEL 024-523-3171